

マルコの福音書 第10章 15節

「まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。」

なんの苗木か忘れてしまいましたが、園児たちが懸命に植林のお手伝いをしている光景がニュースで放映されていました。荒れた土地で土が風で舞い上がらないように、そして山肌が緑で覆われるようにとの願いです。

園児たちの小さな手が一心不乱に植樹している姿が微笑ましい。他の何も思うことなく、ただひたすら苗木を植え付けてゆく。苗木に没頭し、土をかき分けながら山肌に植えている姿には目が引き込まれます。それぞれが与えられた場所に、手にした苗木を一生懸命に植えます。一通りの作業が終わったところで作業を収録していた記者が園児たちに質問します。「どうでしたか。」応えは「楽しかった。」他の園児には「どのようになってほしいですか。」応えは「おおきくなってほしいです。」

思ったまま、植えたまま自然に育ててほしいのです。園児たちは喜んで、思うまま記者に応答します。苗木と土のちからにゆるぎない信頼を持っています。記者と園児との会話を聞いていると、やがて緑で覆われる山を見るような気持ちにさせられます。